## 平成 30 年度教育事業

# 「集団登山 上級指導者研修会」(H30.7.14(土)~16(月))



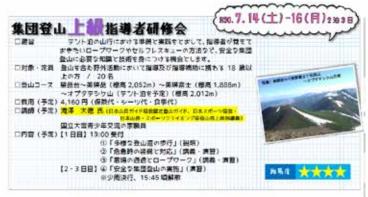
#### 目的

青少年の集団登山においてリーダー的な役割を担う指導者等が、危険箇所の通過方法や 危急時のセルフレスキューなど、安全な集団 登山に必要な知識と技術を身につける。

参加実績(募集20名)

#### 参加5名

- ・高校教諭1名
- ·小学校教諭1名
- ・自営業1名
- ・大雪ボランティア 1 名
- ・スポーツインストラクター 1 名



プログラム(天候の影響により日程内容を大幅に変更) 演習「ロープワークと悪場の通過」・・・・(90分)

・屋外で、基本的なロープの結び方や、悪場を想定した、有効なロープの使い方などの演習を行った。

講義「遭難事故の発生~緊急避難と露営」・・・(90分)

・ビバークが必要になる気象状況や、必要な装備 などについて学び、状況の正確な観察や判断の重要 性について意識を高めた。

講義「遭難事故の発生~捜索・救助・対策」・・・(120分)

・事故発生時の連絡先や内容、事後の諸手続きなど について、指導者自身が遭難しないようにすること の大切さ、セルフレスキューの方法について学んだ。





講義・演習「各装備品の扱いと準備について」・・・(120分)・ビバーク時のツェルト等の利用方法、熊撃退スプレーの使用方法を確かめたり、食料や着替え、ファストエイドキットなどの携行品の種類や量などについて、参加者同士のザックを持ち寄って比べることで、よりよい準備についての意識を高めたりした。

演習「安全な集団登山の実施」・・・(300分)

・十勝岳中腹から片道2時間半ほどの登山を行った。リーダー役を交代しながら、どのような場所で、どのような声かけが必要かを確かめながら、演習を行った。

まとめ・・・(30分)

・施設に戻り、演習のふりかえりを行った。

山泊を中止したため、期間中に自炊活動を2度実施。

### 成果

常に、指導者として参加者の安全への意識や、緊急時でも冷静に集団をリードできる心構えやスキルを高めていく必要性を強く印象付けられた。

参加者それぞれが、自分のスキルや装備品などについて 課題となる部分に気づくことができた。

登山の演習では、リーダー役と参加者役の両方の立場を 経験し、感想を言い合うことで、指導者に求められる考 え方や、よりよい伝え方を実践的に学ぶことができた。

## 参加者の声

大変有意義な3日間でした。ありがとうございました。 基礎より勉強、再勉強ができる機会を与えて頂き、誠に ありがとうございます。

上級指導者としてしまうより、個人のスキルアップとした方が参加しやすいのではないだろうか。

#### 事業運営のツボ・工夫・反省

- ・日帰り登山を行った「登山指導者研修会」の参加者3名が、この事業にも参加して、指導者としての研鑽を積む機会としていただけた。
- ・上級という言葉のイメージから、申込をためらった方がいた ようだったので、参加対象やプログラム内容について、もっと 詳しく伝える工夫が必要。
- ・天候の影響で、山泊が中止になるなど、大幅な日程変更となったが、日帰り登山の研修には無かったプログラムを実施し、 参加者がそれぞれに安全のためのスキルや意識を高められた。
- ・次回は、地元山岳会などとの共催で、事業ができないかを 検討する。

事業運営費 合計 257,929 円 講師謝金・旅費 91,240 円

職員実地踏査旅費 15,600 円 チラシ郵送費 47,971 円

チラシ印刷代 103,118円 印刷代、郵送費については全登山登山事業(6事業)共通)







